

318

201

軍需商會編纂部著

典範令研究ノ彙 第二集

發行所

軍需商會出版部

典範令研究ノ彙第二集

目次

野外要務令ノ部

軍及師團ノ戰闘序列ヲ削除シタル理由

戰闘序列ヲ令スル時期ノ差異(新舊兩令ニ於ケル)

作戰ト戰略トノ區別

軍隊區分中指揮官ヲ掲クル場合ト否ラサル場合ノ例

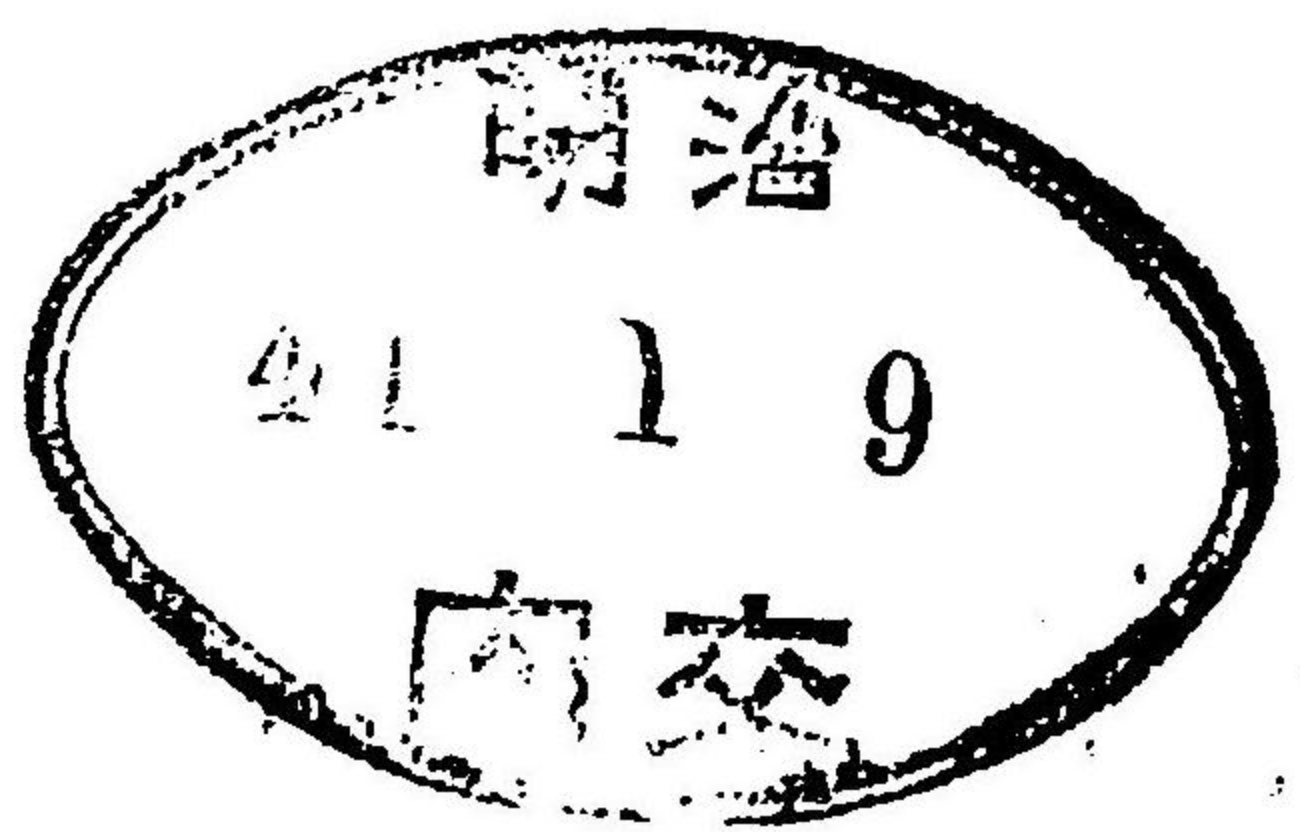
直下ノ指揮官ト直接指揮官トノ解

報告ヲ記スルトキ區別スル件ニ就テ

詳圖及掌圖ニ就テ

遞歩哨相互ノ距離

目次



距離、間隔ノ説明削除ニ就テ

曆日ノ記載ニ就テ

中隊ニテ大半ヲ缺キタルトキノ記載法

封筒改正ニ就テ

傳令使及斥候ノ輕裝ニ就テ

大ナル部隊ヨリ小ナル部隊ニ連絡スル理由

前兵支部ヲ一中隊ト限定シタル理由

村落露營ノ警戒法

查哨廢止理由

砲兵ノ緊急集会场ニ就テ

騎兵ノ火器ノ説明

緊急大集会场ヲ設置スル場合及適當ナル位置

束藁及藁輪ヲ以テスル宿舍標示法廢止ノ理由

緊急大集会场ノ數

厩衛兵ニ就テ

補助擔架卒ノ徽章

假綑帶所ト水トノ關係

假綑帶所ノ位置ニ就テ

傷者送致ノ材料ニ就テ

要務令中下級指揮官及兵卒ニ必要ナル改正要點

步兵操典改正草案ノ部

中隊教練ニ於ケル剩餘士官ノ位置

一齊射撃ノ號令ニ就テ

大隊ノ展開命令例

諸種ノ部隊ノ解

少數ノ人員ニテ操縦シ得ヘキ標的ニ就テ

小部隊ノ戦闘演習ニ於ケル敵線ノ表示ニ就テ

散兵線ノ集合ニ就テ

疎散ナル散兵線ノ説明

躍進距離ノ最小限決定ノ理由

突撃ノ號音ニ就テ

防禦工事ヲ大隊毎ニ集團セシムル理由

大隊ノ正面幅ニ就テ

旅團ノ戦闘正面幅ニ就テ

歩兵機關銃操典草案ノ部

機關銃ノ低キ組立法ニ就テ

機關銃ノ轉回ニ就テ

機關銃ノ射撃單位ヲ二銃トシタル理由

機關銃射撃陣地偵察要領

機關銃過早射撃ノ害

規整子分畫ニ就テ

射撃中藥莢切斷シタルトキノ所置

機關銃單發射撃ノ銃器保存ニ及ホス關係

連續射撃中止ノ爲メノ所置

野砲兵操典改正草案ノ部

三八式野砲ノ教練及射撃ハ三一式ト異ルコトニ就テ
 歐米諸國現用野砲ノ防楯及最大射程ニ就テ
 防楯ノ侵徹量
 防楯ノ掩護ニ就テ
 三八式野砲ノ砲架坐ニ坐スルコトニ就テ
 四門中隊ト六門中隊ノ國別

歩兵射撃教範改正草案ノ部

湿度ノ射撃ニ及ホス關係
 射撃姿勢ノ外形ハ齊一ヲ要セサルコトニ就テ
 黒點ノ大サヲ定ムル基礎
 照準ヲ通視セシムル方法ノ改正ニ就テ

照準鑑査法ニ於テ得タル二點ノ距離ノ許スヘキ範圍
 立射ニテ通常銃把ノ右側面ヲ握ルコトニ就テ
 床尾飯面ヲ肩ニ接着スヘキ度合
 狹窄射撃ノ價值ニ就テ
 空包射撃廢止理由
 架上立射廢止理由
 教練射撃ノ最終習會ト基本射撃射撃最終習會ノ關係
 基本射撃ノ一習會ノ射彈數増加ニ就テ
 分隊戰團射撃ノ射距離ニ就テ
 證明射撃ノ廢止ニ就テ
 夜間射撃及間接射撃ノ價值ニ就テ
 二人立射廢止理由

標的ノ着色ニ就テ
階段托架ノ廢止ニ就テ

典範令研究ノ彙第二集目次終

典範令研究ノ彙第二集

野外要務令ノ部

質 問

改正要務令第一ニハ軍及師團ノ戰鬪序列ヲ削除セラレタリ如何ナル理由ナリヤ

答

改正要務令ニ於テハ總テ軍隊機密ニ關スル事項ヲ削除セラレタリ本條亦然リトス

質 問

戰鬪序列ヲ令スルハ舊令ニテハ「全軍又ハ一部ノ動員ヲ行フ時」トアリシヲ新令ニハ「全軍又ハ一部ノ動員ヲ行ヒタル時」トアリ此間ニハ特ニ

野外要務令ノ部

大ナル差異アルヤ

答

舊令ノ精神ハ動員ヲ行フト同時ニ戰鬪序列ヲ令スルヲ示シ新令ニテハ其令達時期ノ範圍ヲ擴張シタルナリ即チ新令ニ依レハ其令達ハ動員完結後直ニセラル、コトアリ或ハ其後長時日ヲ經過シタル後例ヘハ出征途中船中ニ於テ下令セラル、コトアリ

質 問

作戰ト戰略トノ區別ヲ問フ

答

作戰トハ戰略及戰術ノ總テノ動作ヲ總稱スルモノナリ故ニ戰略ハ作戰ノ中ニ合マル、モノトス

質 問

軍隊區分中其指揮官ヲ掲クルヲ要スルモノハ其區分ノ第一項ニ記スヘキコトハ第九ニ示スカ如シ如何ナルモノハ掲クルヲ要シ如何ナルモノハ之ヲ要セサルヤ例ヲ擧ケテ説明ヲ乞フ

答

本隊以外ノ部分例ヘハ前衛、側衛等ハ其司令官ノ明示ニ依リ之ヲ編組スル部隊ト指揮官トノ統帥隸屬ノ關係ヲ明瞭ナラシムルヲ要ス然レトモ單兵種又ハ歩兵部隊ニ僅少ノ騎兵ヲ附シタルカ如キ單純ナル區分ニ在テハ縱令其司令官ヲ掲ケサルモ其關係明カナルヲ以テ之ヲ示スノ要ナシ
例ヘハ左ノ如シ

前 衛

司令官歩兵少佐 某

野外要務令ノ部

步兵第一大隊

騎兵第一中隊(一小隊缺)

工兵第一中隊

右ノ如キ場合ニハ司令官ノ示スヲ常トス是レ戰時ニ在テハ人員ニ缺損アリテ歩兵大隊長必スシモ少佐ナラス或ハ大尉ニシテ其職務ヲ取ルコトアリ故ニ故參ノ關係ヨリ言ヘハ或ハ騎兵工兵ノ中隊長ヨリ新參ナルコトアリ又之ノ如キ混成ノ部隊ニ於テ他兵科ノモノハ前衛司令官タル歩兵大隊長ノ氏名ヲ知ラサルモノアルヘシ故ニ之ヲ示スヲ可トス

右側衛

步兵第五中隊

騎兵一分隊

右ノ場合ニハ前掲甲ノ如キ關係ナシ故ニ必スシモ指揮官ヲ示スノ要ナシ殊ニ左ノ如キハ然リトス

獨立騎兵

騎兵第三中隊

左側衛

步兵第十二中隊

但單兵種ト雖モ次ノ如キトキハ之ヲ示スヲ可トス

左側衛

司令官歩兵大尉 某

步兵第三中隊

步兵第四中隊

即チ大隊長ニアラサル故參中隊長ヲシテ二中隊ヲ指揮セシムルトキ

野外要務令ノ部

五

ノ如シ

質 問

舊要務令第十ノ「直下ノ指揮官」ト新令第十一ノ「直轄指揮官」トハ異ルヤ

答

異ナリトス

夫レ直下ノ指揮官トハ字義上ヨリ解スレハ次級ノ指揮官ナリ即チ師團長ノ直下ノ指揮官ハ歩兵旅團長ノ故參者ナリ

直轄指揮官ハ直接隸屬シアル指揮官ナリ即チ師團長ニ隸屬スル歩兵ノ兩旅團長、騎、砲、工兵隊長皆然リ若シ軍隊區分ニ依リ右翼隊、中央隊、左翼隊及騎兵隊、砲兵隊ニ區分セラレアルトセハ其各指揮官ハ即チ師團長ノ直轄指揮官ナリ

要務令第十一ニ示スカ如キ退却ノ場合ニハ必要アル是等直轄ノ數指

揮官ニ豫メ傳フルノ要アリ決シテ唯一人ノ次級者ニノミ傳フルニテハ充分ナラス是レ直下ノ指揮官ヲ直轄指揮官ト改メラレタル所以ナルヘシ

質 問

「報告ヲ記スルニハ報告者自ラ目撃セシコト他人ノ見聞セシコト他人ニ問フテ得タルコト」ト又推測ニ係ルコトヲ判然區別セサル可ラストハ舊要務令第十五ニ示ス所ナリ然ルニ新要務令第十六ニハ「他人ノ見聞セシコト」及「他人ニ問フテ得タルコト」ノ二句ヲ改メテ「他人ノ實見セシコト」及「他人ノ聞知セシコト」ト爲セリ此間其意義ニ大ナル差異アルヤ

答

概言スレハ殆ント差異ナシトス

蓋シ舊令ノ「他人ニ問フテ得タルコト」ノ文意ハ其上ニ記シアル「他人ノ見聞セシコト」ト敢テ異ル所ナシ而シテ他人ノ見聞シタルコトノ内其實見シタルコトト他ヨリ聞キタルコトトハ區別スルノ要アリ故ニ之ヲ新令ニ於テハ「他人ノ實見セシコト」及他人ノ聞知セシコトニ改メ以テ其趣旨ヲ明ニシタルナルヘシ

質問

詳圖ト掌圖トハ同一ノモノナリヤ

答

然リ

舊要務令ニ掌圖トアリシヲ新要務令ハ詳圖ト改メタルナリ元來掌圖ナル語ハ掌上ニテ描畫ストノ意ヨリ起リタル名稱ナルモ現今ニ於ケル其用途ヨリ言ヘハ此名稱ハ稍穩當ナラズ寧ロ詳圖トスル方其名實

相協ヒ適當ナルヲ以テ斯ク改メタルナルヘシ

質問

遞歩哨ノ相互ノ距離ハ二乃至四吉米ヲ以テ適度トストハ如何ナルコトニ基キ決シタルヤ

答

急速ナル歩度即チ駈歩及早駈ヲ以テ連續行進シ得ルハ健脚ナル歩兵ト雖モ四吉米ヲ超スルコト困難ニシテ二吉米ハ敢テ難シセス實戰ノ經驗ニ依レハ多クハ二吉米内外ナリシ而シテ此以下ノ距離ナルトキハ取次ニ却テ時間ヲ費スニ至ル故ニ斯ク定メタルナルヘシ

質問

新要務令ニハ舊要務令第四十六ニアリタル「距離、間隔」ノ説明ヲ削除セラル如何ナル理由ナルヤ

答

別ニ大ナル意義アルニアラス「距離」及「間隔」ノ解ハ十分明カナルヲ以テ之ヲ示スヲ必要トセサル爲メナラン

質 問

「日」ヲ記スルニ當リテハ單ニ明日又ハ昨日ト記スルコトナク曆日ヲ記入スルヲ要ストハ新野外要務令第四十七ニ新ニ挿入セラレタル一項ナリ曆日トハ何月何日ト記スルナルヤ又絶對的ニ之ヲ記スルヲ要スルモノナルヤ

答

單ニ今日明日或ハ昨日ト記スルコトナク今何日明何日或ハ昨何日ト記スレハ足ル

又絶對的ニ之ヲ記スルモノトスルニ及ハサルヘシ何トナレハ決シテ

誤解ヲ生スルノ虞ナキコト確實ナル場合ニハ今ヨリ敵ヲ攻撃セントス「或ハ」本夜某村附近ニ宿營セントス「ノ」如キ記載法ヲ用ユル方却テ文章ヲ短簡ニスルヲ得ヘキカ故ナリ

質 問

工兵一中隊ヲ分割シテ使用シタル爲メ中隊長ノ許ニ唯一小隊残りタルトキハ如何ニ之ヲ記載スヘキヤ

答

工兵中隊(二小隊缺)ト記スヘシ(要務令第五十一ニ依ル)

質 問

封筒附報告紙ヲ廢止セラレタルハ如何ナル理由ナルヤ又五密米方眼ヲ十密米方眼トシタルハ大ナル意味アルヤ

答

封筒報告紙ハ二葉以上ヲ同時ニ使用スル能ハサル不利アリ從テ之ヲ使用スルハ稀ナルヲ以テ廢止セラレタルナルヘシ
又報告紙裏面ノ五密米方眼ヲ十密米方眼トナシタルハ元來報告紙ノ此方眼ハ主トシテ略圖用ナルヲ以テ敢テ斯ル細密ナル方眼ヲ必要トセス且十密米方眼トスルトキハ裏面即チ此方眼ニ報告文ヲ記スルトキ却テ便ナルカ故ナルヘシ

質 問

傳令使或ハ斥候ニ輕裝セシムルトキハ如何ニスルモノナルヤ

答

裝具ヲ脱シ唯必要ノ武器ノミヲ携帯セシムルナリ但距離長遠ナルトキハ外套及糧食ヲ携ヘシムルヲ常トス若シ騎兵ナルトキハ馬裝ノ若干ヲモ亦減スルモノトス

質 問

第八十七ニ曰ク「凡ソ前進運動ニ於テハ小ナル部隊ハ常ニ大ナル部隊ノ進退ニ從フヘク而シテ大ナル部隊ハ其前方ニ連絡ヲ保持スヘシ」ト小ナル部隊ニシテ大ナル部隊ノ進退ニ從ハントセハ寧ロ小ナル部隊ヨリ其後方ノ大ナル部隊ニ連絡ヲ取ルヲ適當トスルニアラサルヤ

答

敵方ニ向ヒ逐次ニ小ナル數個ノ部隊ニ區分スルハ警戒ノ部署法ナリ即チ敵ニ最モ近キ警戒部隊ノ狀況ヲ知ルニアラサレハ大ナル部隊ノ進退ヲ適當ニ所理スルコト能ハス連絡ヲ取ルハ即チ其狀況ヲ明カニスル爲メ必要トス殊ニ警戒隊ヲ出スハ其必要アルカ爲ナルニ若シ連絡ノ責任ヲ警戒隊ニ負ハシムルトキハ萬一其警戒隊其本隊ト連絡ヲ失シタリトセハ警戒不充分トナリ本隊ニ危險ヲ來スニ至ラン此時ニ

至リ其過失ヲ責ムルモ何ノ得ル所カアラン之ニ反シ本隊ヨリ警戒隊ニ連絡スルトキハ萬一其連絡ヲ失フトキト雖モ本隊ハ自ラ直ニ更ニ警戒ノ部署ヲ爲スヘキヲ以テ危険ニ陷ルノ虞ナカルヘシ是レ小ナル部隊ハ常ニ大ナル部隊ノ進退ニ從フト雖モ其連絡ハ大ナル部隊ヨリ小ナル部隊ニ取ル所以ナリトス

質 問

前兵支部ノ兵力ハ舊要務令ニテハ歩兵一中隊或ハ一小隊ナリシヲ新要務令ニテハ歩兵一中隊ト限定セリ其理由如何

答

前兵支部ノ兵力一小隊ナルトキハ其長ト尖兵長トノ關係適當ナラス是レ尖兵ハ士官ノ指揮スヘキヲ原則トスルカ故ニ支部長ハ兼尖兵長トナラサルヘカラス然ルトキハ逐次小ナル部隊ニ區分スル警戒部署

ノ趣旨ヲ滅却スルコト、ナル且實際ニ於テ一小隊ヲ前兵支部ト爲スハ殆ント之レナク斯ノ如キハ却テ徒テニ兵力ヲ分離スルニ過キサルナリ是レ前兵支部ノ兵力ヲ一中隊ニ限定シタル所以ナルヘシ

質 問

第一百九第二項ニ「全隊村落露營ヲ爲ス時ハ同一ノ前哨線ヲ設クルニ代ヘ宿營中敵軍ニ近キ各村落毎ニ警戒法ヲ設クルコトアリ」トアリ之ニ依レハ全隊村落露營ヲ爲ストキハ同一ノ前哨線ヲ設ケス常ニ敵ニ近キ各村落毎ニ警戒法ヲ設クヘキモノナリヤ或ハ同一ノ前哨線ヲ設クルコトアルモノナリヤ

答

全隊村落露營ヲ爲ストキハ同一ノ前哨線ヲ設クルモ時宜ニ依リ同一ノ前哨線ヲ設クルニ代ヘ敵ニ近キ各村落毎ニ前哨ヲ設クルコトアリ

ト解スルヲ可トセン

抑村落露營ヲ爲スヘキ場合ヲ窺フルニ警戒上ヨリ宿營力充分ナルトキモ尙之ヲ行フコトアリ或ハ宿營力少キ爲メ已ヲ得ス之ヲ爲スコトアリ又敵ニ接近シタルトキ部署ノ關係ヨリ或ハ追撃後現在地ニ宿營セシムル爲メ等ヨリ廣正面ニ散在シテ比較的警戒ヲ嚴ナラシムル爲メ此宿營法ヲ採用スルコトアリ全隊稠密シテ村落露營ヲ爲ストキハ其警戒ハ同一ノ前哨線ニ依リ普通一般ノ場合ノ如ク實施セラル、ナラン之ニ反シ廣正面ニ散在シタルトキハ各村落毎ニ各前哨ヲ設ケテ警戒スルコト、ナルヘシ

故ニ第百九第二項ハ此兩場合ヲ示シタルモノト解スルヲ可トス

質 問

查哨ヲ廢セラレタル理由ヲ問フ

答

舊要務令ニ依レハ查哨ハ步哨線ノ一ノ關門ナリシ然レトモ實際ニ於テ步哨線ニ集マル通行人ヲ悉ク此關門ニ集ルハ容易ノコトニアラス夜間ニ於テハ益然リトス殊ニ敵ニシテ我步哨線ヲ偵察スル目的ヲ以テ各步哨ヨリ逐次查哨ノ位置マテ遞送スル此規定ヲ利用スルトキハ我步哨ハ忽チ敵ノ爲メ察知セラル、ニ至ルノ虞アリ是レ查哨ヲ廢止セラレタル所以ナルヘシ

質 問

舊要務令第二百四十七ニハ「砲兵ノ警急集合場ハ常ニ砲廠ノ所在トス而シテ其位置ハ通常舍營地中敵ニ反對スル側方ニ置クモノトス」トアリシヲ新要務令第二百四十九ニハ其末文ヲ削リ單ニ「砲兵ノ警急集合場ハ常ニ砲廠トス」トアリ舊要務令ニアリシ如ク砲廠ノ位置ヲ舍營地

中敵ニ反對スル側方ニ置クコトハ適當ナルモノト思ハル然ルニ之ヲ
削リシハ何故ナルヤ

答

砲廠ノ位置ハ成ルヘク舍營地中敵ニ反對スル側方ニ置クコトノ適當
ナルハ疑ヲ容レサル所ナリ是レ戰備ヲ整フルコト最モ迅速ナル歩兵
ノ掩護ヲ受クルヲ得且夜間戰鬪力ヲ有セスシテ却テ徒ラニ歩兵ノ運
動ヲ妨害スルカ如キコトナケレハナリ
然レトモ其位置ハ全ク當時ノ狀況ト地形ニ依リ定メサルヘカラス常
ニ敵方ニ反對スル側方ニ置キ得ルモノト限ラサルヲ以テ新令ニテハ
之ヲ削除シ其範圍ヲ廣メタルモノナルヘシ

質問

舊要務令第二百五十五敵ノ近傍ニ獨立シテ舍營スル騎兵ハ專ラ搜索

ヲ以テ急襲ヲ警戒シ又騎銃ヲ利用スルコトヲ忘ル可ラスノ内新要務
令第二百五十六ニテハ「騎銃」ヲ「火器」ニ改メタリ其意義ニ異ル所アルヤ

答

從來ハ騎兵ノ有スル火器ハ騎銃ナリシモ今ハ騎銃ノ外騎兵聯隊ニ屬
スル機關銃騎兵旅團ニ屬スル騎砲兵アリ故ニ之等ヲ含有セシメテ「火
器」ト改メタルナリ

質問

警急大集合場ハ如何ナル場合ニ設クヘキモノナルヤ又如何ナル位置
ヲ適當トスルヤヲ問フ

答

警急大集合場ハ敵ニ近接シテ宿營スル場合ハ常ニ之ヲ設クルヲ可ト
ス若シ之ヲ設クルモ之カ爲メ大ナル設備交通路ノ開修等ヲ要スルカ

如キ場合ニアラザレハ縦令大ニ之ヲ必要トセサル場合ニ在テモ尙之ヲ設クルヲ利トス

然レトモ夜間大部隊ヲ一地ニ集合スルハ却テ指揮統御ニ不便ナルモノトス故ニ此虞アルトキハ軍隊使用ノ便ヲ顧慮シ大集合場ヲ數個設クルヲ可トス又次ノ場合ニ在テハ之ヲ設クルコトナク各隊ヲシテ其警急集合場ニ於テ命ヲ待タシムルヲ適當トス

一、地形上警急大集合場ノ位置敵ノ來襲スヘキ諸方向或ハ我豫定陣地ニ關シ適當ニ軍隊ヲ使用シ得サルトキ

二、各警急集合場ヨリ集合スルニ當リ通過點少キ障礙物在テ集合困難ナルトキ

三、集合ノ後目的地ニ前進スルニ當リ再ヒ行軍縱隊トナルニアラザレハ前進シ得サルカ如キ地區ノ外ニ集合地ナキトキ

警急大集合場ハ次ノ要旨ニ從テ撰定セラル、ヲ要ス

- 一、敵ノ來襲方面又ハ我豫定陣地ニ關シ適當ニ軍隊ヲ使用シ得ルコト即チ進出容易ナルコト
- 二、集合ノ爲メ成ルヘク後方ニ退ク部隊ナキコト
- 三、集合ノ爲メ交通路ニ富ムコト
- 四、各部隊ノ宿營地ヨリ遠隔セサルコト
- 五、前哨及外衛兵ニ依リ掩護セラル、コト
- 六、指定セラレタル諸部隊ノ爲メ地域充分ナルコト

質 問

舊要務令(第二百四十八)ニ於テ規定シアリタル東藁及藁輪ヲ以テスル宿舍ノ標示法ヲ廢止シタル理由ヲ問フ

答

此標示法ハ實際之ヲ行ハス其必要ヲ認メサルニ依ル

質 問

警急大集合場ハ數個設ケラルヽコトアリヤ

答

大部隊ニ在テハ數個設クルコトアリ要務令ニモ示ス如ク警急大集合場ハ警報アル時命令ヲ待タス速ニ聯隊或ハ旅團等ニ集合スヘキ處トス故ニ例ヘハ獨立セル一師團ニ在テモ其本隊ノ爲メニ一個ヲ設クルハ却テ混雜ヲ來スノ虞アルニ依リ前衛ノ歩兵ト同旅團ノ歩兵聯隊ノ爲メニ甲所ヲ他ノ歩兵旅團及本隊ニ屬スル工兵ノ爲メニ乙所ヲ撰定スルコトアリ若シ又砲兵等ノ爲メ他ニ丙所ヲ撰定スルトキハ即チ警急大集合場ハ三ヶ所トナルヘシ

質 問

舊要務令第二百四十五風紀衛兵ノ項ノ末交ニ「既衛兵ハ各隊ニ於テ自ラ之ヲ置クモノトス」ノ規定アリシヲ新要務令ニハ之ヲ削除セラレタリ是レ既衛兵ハ風紀衛兵ヨリ配置スルコト、ナリシ爲メナリヤ

答

否、既ノ監視兵ハ衛兵ニアラス全ク其隊ノ内務ニ屬スルコトナルヲ以テ之ニ關スル規定ヲ削除シタルナリ

質 問

補助擔架卒ノ徽章ハ舊要務令ニハ赤布ナリシヲ新要務令ニ於テ白布ニ改メタル理由ヲ問フ

答

補助擔架卒ノ徽章ハ晝夜共成ルヘク遠方ヨリ明瞭ニ識別シ得ルヲ要

ス然ルニ從來ノ赤布ハ此要旨ニ適セス殊ニ茶褐色ノ新制服ニ對シテハ色ノ配合適當ナラス益明瞭ヲ缺クノ嫌アリ是レ白布ニ改メタル所以ナルヘシ

質 問

假緋帶所撰定ノ要件中ニ舊要務令ニハ近傍ニ於テ水ヲ得ルノ便アルコトヲ掲ケアリシヲ新要務令ニテハ之ヲ削リタリ如何ナル理由ナルヤ

答

抑假緋帶所ハ成ルヘク所屬隊ノ戰線ニ接近シテ之ヲ設ケサルヘカラス故ニ到底水ヲ得ルニ便ナル地ヲ撰ム能ハス且傷者ノ取扱上ヨリ云フモ現時ノ救急ノ所置ニハ必スシモ水ヲ必要トセス假緋帶所ハ其名ノ如ク單ニ假リノ手當ヲ施スニ過キサルヲ以テナリ

質 問

假緋單所ノ位置ハ舊要務令ニハ「小銃火ヲ被ラス又成ルヘク大砲火ノ達セサル地ニシテ云々」トアリシヲ新要務令ニハ「成ルヘク敵火ヲ避ケ得ル地ニシテ戰線ニ近接シ云々」ニ改メラレタリ即チ新令ノ規定ハ舊令ニ比スレハ假緋帶所ノ位置ヲ一層戰線ニ近ツカシメタルモノ、如シ果シテ然ルヤ

答

精神ニ於テハ敢テ變化ナシ唯舊要務令ノ「小銃火ヲ被ラス又大砲火ノ達セサル地」ナル文句ハ往々砲彈ノ射程外ナルヤニ誤解セラル、ノ虞アリシヲ以テ之ヲ改メ成ルヘク敵火ヲ避ケ得ル地トシ又「戰線ニ近接シ」ナル文句ヲ挿入シ其精神ヲ明ニシタルナリ

質 問

第三百十二ノ假繙帶所ヲ撰定スルトキ願慮スヘキ要件ノ内、傷者ヲ繙帶所又ハ野戰病院ニ送致スルニ供スヘキ材料トハ如何ナルモノヲ云フヤ

答

運搬材料ナリ即チ車馬其他急造擔架ヲ構成シ得ヘキ板戸、蓆等ヲ謂フ

質 問

新舊野外要務令ヲ對照シ步兵ノ下級幹部及兵卒ニ必要ナル差異アル點ヲ單簡ニ列記シテ示サレタシ

答

兵卒ニ必要ナル改正要點左ノ如シ(括弧内ノ番號ハ改正要務令ノ條項ヲ示ス以下同シ)

一、傳令使ハ途中上官ニ遇フト雖敬禮ヲ行ハサルコトニ定メラル(第

三十五

二、查哨ヲ廢止セラル

三、複哨ハ二人乃至四人トナル(第三百三十二)

四、夜間低地ニ在ル步哨ハ敵ヲ透視スルニ便ナルコトヲ加ヘラル(第三百三十二)

五、容易ニ敵ヨリ發見セラレサル爲メ哨所附近ノ地物ト同色ノ物件ヲ以テ步哨ノ身邊ヲ掩フヲ利トスルコトヲ加ヘラル(第三百三十二)

六、從來下士哨ニ於テ其二人步哨トナルノ規定ハ通常二人トスルコトニ改メラル(第三百三十三)

七、步哨ハ我軍ノ將校、密集部隊、斥候及傳令使以外ノ者ノ步哨線通過ニ關シテハ小哨長ノ指示ヲ受クルコトニ改メラル(第三百四十四)

八、步哨ノ問查法中、止レヲ廢セラル(第三百四十四)

九、軍使及降參人ノ取扱ハ步哨線外ニ止メ小哨長ニ報告スルコト、ナル(第四百四十四)

十、步哨ノ携銃法ニ提銃ヲ加ヘラル(第四百四十四)

十一、特別守則ニ複哨ノ人員三人若クハ四人ナルトキノ監視法ヲ加ヘラル(第四百四十四)

十二、敵兵ヲ捕獲スル爲メ斥候ヲ潜伏セシムルコトヲ加ヘラル(第四百四十九)

十三、巡察ノ人員ハ從來二人ナリシヲ若干ト改メラル(第五百十)

十四、行軍中兵卒已ムヲ得ス隊列ヲ離ル、ヲ要スルトキハ小隊長其近傍ニアラサルトキハ分隊長ノ許可ヲ受クルコトヲ加ヘラル(第二百四)

十五、右ノ場合銃ハ必ス同列兵ニ托スヘキ從來ノ規定ヲ削除セラル

(第二百四)

十六、強風殊ニ砂塵飛揚スル時及積雪ノ地ニ在テハ眼鏡若クハ眼鏡ヲ使用スルヲ可トスルコトヲ加ヘラル(第二百八)

十七、宿舍ノ前ニ爲シタル隊號及人員ノ標記ハ宿營ニ就キタル後速ニ撤去スルコトニ改メラレ又隊號ハ間諜ニ知ラレサル如ク省略シテ記載スルコト、ナル(第二百三十七)

十八、喇叭手ノ宿營ハ藁輪ヲ以テ標示スルコトヲ廢セラル(第二百四十八)

十九、補助擔架卒ノ腕章ハ白布ニ改メラル(第三百十)

二十、輕傷者戰線ヨリ退クトキハ附近ニ在ル指揮官ノ許可ヲ受クヘキコト、ナル(第三百十六)

二十一、秋季演習ニ於ケル假設敵ノ白旗一本ハ騎兵小隊ヲ標スルコ

トニ改メラル(第二部第六十八)

二十二、秋季演習ニ於ケル徽章ノ規定(第二部第百十八)

統監部ニ屬スル者 白布

中立ノ者 黄布

陪觀將校及之ニ屬スル者 赤布

二十三、演習ニ於ケル突撃ノ際互ニ近接スヘカラサル距離ハ、二十米ニ

改メラル(第二部第百十九)

下級幹部ニ必要ナル改正要點ハ、以上ノ外左ノ如シ

一、俘虜及遺留シタル傷者ノ言亦候察ノ端緒ト爲ル云々トアリシヲ
俘虜及遺留シタル傷病者ノ言并ニ其携帶セル書類モ亦候察ノ端
緒ト爲ル云々ニ改メラル(第十三)

二、報告ニハ員數ヲ示スニ例ヘハ大約步兵幾大隊、砲兵幾中隊ノ如ク

其隊數ヲ記シタルモ爾後大約步兵幾人、若クハ幾隊、砲幾門ト記載
スルコト(第十六)

三、日ヲ記スルニハ單ニ明日又ハ昨日ト記スルコトナク、曆日ヲ記入
スルコトナル(第四十七)

四、著名ナラサル地名ハ一地方ニ於テ同一ノ地名アルトキノ如ク精
密ニ記シ明瞭ナラシムルコト、ナル(第四十八)

五、報告紙及封筒ハ少シク改正セラレ又封筒ヲ兼テタル報告紙ハ廢
止セラレタリ(第五十三)

六、敵ト接近セル場合ニ於テハ步兵將校斥候ヲ用フヘキコトヲ搜索
勤務ノ部ニ挿入セラレタリ(第六十八)

七、大ナル前兵ニ在テハ步兵一中隊或ハ一小隊ヲ前兵支部トシテ出
スノ規定ノ内、一小隊ヲ出スコトハ削除セラレタリ(第八十三)

八、歩兵ノ尖兵ノ搜索範圍ハ廣漠ニ過キシモ改正令ニテハ前兵ノ援助ヲ借ラスシテ行進路ノ近傍ヲ成ルヘク廣ク搜索スルコト、ナリ其範圍ハ稍制限ヲ加ヘラレタリ(第八十四)

九、前哨ニ於テ道路外ノ通過容易ナル地方ニ在テハ道路間ニ於ケル地區ノ守備ヲモ亦忽ニスヘカラサルコト(第百四)

十、前哨ニ在テハ中隊ニ於テ自炊セシムルコトアリ(第百十七)

十一、小哨ト獨立下士哨トノ區別ヲ改メラル即チ獨立下士哨ハ從來小哨ノ連絡及側面ノ警戒ヲ補フ爲メニ用ヒラレシヲ小哨ト同様ニテ唯切要ノ度少キ所ニ用ウルコト、ナル(第百二十三)

十二、軍使來リシ時ハ前哨中隊長ハ步哨線外ニ於テ其來意ヲ聽キ之ヲ前哨司令官ニ報告シ軍使ハ之ヲ歸還セシムルコト、ナル(第百二十九)

十三、步哨ノ配置ニ於テ通常一哨所ニ屬スル六人ノ兵卒ヲ一下士或ハ上等兵ノ引率ニテ其位置ニ至ラシムルノ規定中其六人ノ二字ヲ削除セラル(第百三十五)

十四、小哨ハ又銃スルノ規定ヲ又銃若クハ銃架ニ托スルコトニ改メラル(第百三十八)

十五、小哨ニ在ル下士兵卒ノ一部ヲシテ睡眠セシムルコトハ從來夜間ニ限レルノ規定ナリシヲ夜間ノ二字ヲ削リ晝夜ニ拘ハラサルコト、ナレリ(第百四十)

十六、步哨ヨリ軍使ノ來リシコトヲ報告セシトキハ小哨長ハ更ニ前哨中隊長ニ報告スルコト、ナル(第百四十二)

十七、斥候ノ歸路往路ト異ナル時ハ其歸路ヲ監視スル步哨ニ豫メ斥候ノ歸還スル概略ノ時刻等ヲ告知スルコトヲ加ヘラル(第百四十)

九

十八、行軍長徑其他編制ニ關スルコトハ總テ削除セラル

十九、途歩ニ於テ刀ハ鞘ニ納ムルコトヲ加ヘラル(第二百四)

二十、軍橋通過ノ際時宜ニ依リ部隊間ノ距離ヲ増大スルコトヲ削除セラル(第二百六)

二十一、行軍中歩兵中隊後ノ距離八米ヲ十米ニ改メラル(第二百五)

二十二、行軍中ノ休憩ヲ概テ每一時從來ハ毎二時ニ改メラル(第二百十八)

二十三、夜行軍實施ニ關スル注意中ニ爲シ得レハ嚮導者ヲ附シ且後續部隊ヲシテ進路ヲ誤ラシメサル爲メ所要ノ地點ニ連絡兵ヲ殘置シ若クハ適宜ノ標識ヲ爲スコト及休憩ハ成ルヘク其時間ヲ短縮シ其回数ヲ増加スヘキコト等ヲ加ヘラル(第二百三十)

二十四、舍營ノ風紀衛兵ハ時宜ニ依リ兵種毎ニ之ヲ置クコトアリ(第二百四十六)

二十五、露營ノ爲メ適當ナラサルハ一般ノ草地ニアラスシテ低地ニ在ル草地ナルコトニ改メラル(第二百六十三)

二十六、歩兵ノ露營設備ハ左ノ如ク改正(第二百七十二)

歩兵ハ縱隊橫隊(各中隊ノ間隔ヲ半小隊面ニ十步ヲ加ヘタルモノニ等シクス)ノ各中隊右(左側面ニ方向變換ヲ爲シタル隊形ヲ以テ大隊毎ニ露營ス

大隊露營ニ到レハ右ノ隊形ヲ作り各小隊ノ距離ヲ増シテ約十六步ト爲シ而シテ又銃ヲ爲ス

(此後ニ於ケル兵卒ノ動作ハ舊ニ同シ)

二十七、各種給養種類ノ名稱ヲ廢セラル(第二百八十九)

二十八、秋季演習ニ於テ「氣ヲ着ケ」止レ、將校集レ「氣ヲ着ケ」前へ等ハ氣球ニ依テ信號セラル、コトアリ(第二部第五十七)

步兵操典改正草案ノ部

質 問

操典中中隊ノ編成ニ於テ小隊長タルヘキ中隊附士官三名ヨリ多キトキ及見習士官アリシトキハ其位置ヲ何所ト爲スヤ

答

操典ハ戰時編制ヲ基礎トス故ニ中隊附士官剩餘アルコトナシ又見習士官ハ戰時之ヲ用フルトキハ小隊長トシテ附スルナリ故ニ平時總テ剩餘アリタルトキハ適宜之ヲ押伍ニ附スレハ可ナリ

質 問

本邦ニ於ケル一齊射撃ノ號令ハ「撃」ヲ活潑ニ短ク發唱スルノ規定ナリ然ルニ獨逸ニ於テハ此「撃」ナル號令ヲ稍長ク發唱スルヤニ聞ケリ果シテ然ラハ本邦ノ制式ト異ル理由ヲ示サレタシ

答

貴問ノ如ク獨逸ニ於テハ「撃」ノ號令ハ稍長唱スヘキモノト規定シアリ
此理由ハ「撃」ノ號令ニテ各兵直ニ引鐵ヲ壓スルトキハ照準ノ多少不良
ナルモノモ撃發セサルヘカラサルヲ以テ「撃」ナル號令ヲ長唱スル間ニ
各自ヲシテ成ルヘク精密照準ノ上發射セシメ以テ命中効力ノ大ナル
ヲ希望スルニアルモノ、如シ然レトモ予ハ寧ロ本邦ノ規定ヲ適當ナ
ルモノト思惟ス實驗ニ依レハ「狙」ナル號令ニテ各自照準シタル際列
中ニ一人ノ暴發スルモノアルモ他兵ハ多ク之ニ誘ハレテ逐次發射シ
而シテ其發射タル充分精密ニ照準シタリト信シテ行ハルニアラス從
テ其成蹟ヲ見ルニ一齊ニ發射シタル場合ヨリモ却テ常ニ不良ナリ
トス獨逸ノ規定ト雖モ元來一齊射撃ナルヲ以テ縱令「撃」ノ號令ヲ長唱
スルモ到底各個射撃ニ於ケル如ク好時機ヲ待テ發射スル能ハサルヘ

ケレハナリ

然レトモ斯ノ如キハ決シテ吾人ノ習慣ヨリノミ推斷スヘキモノニア
ラス獨逸ニ於テハ或ハ平時ノ訓練ニ依テ能ク吾人ノ不利トスル諸點
ヲ消滅シ得タルナラン乎

質 問

第六十五大隊ノ展開ノ部ニ數中隊ヲ同時ニ戰鬪正面ニ就カシムル
ニハ大隊長ハ命令ヲ以テ基準中隊及其中隊ノ動作並ニ他ノ中隊ノ位
置ト中隊間ノ間隔トヲ示シ云々トアリ其命令ノ一例ヲ擧ケ特ニ基準
中隊ノ動作ナルコトハ如何ナルコトヲ示スモノナルヤヲ示サレタシ

答

「第一中隊基準

(基準中隊ヲ示ス)

百米前進ノ後停止

(基準中隊ノ動作ヲ示ス)

第二中隊ハ第一中隊ノ右 (關係位置ヲ示ス)

第三中隊ハ第一中隊ノ左 (同右)

間隔各百米

(中隊間ノ間隔ヲ示ス)

行進方向ニ於テ展開スルハ最モ簡便ナルヲ以テ斯クスルヲ可トスルモ若シ行進方向ニアラサル他ノ方向ニ展開セントスルトキハ基準中隊ニハ其方向ヲ示サ、ルヘカラス然ルトキハ基準中隊ハ其示サレタル方向ニ面シテ位置スルコト、ナル是等ハ亦基準中隊ノ動作ヲ示スノ一例ナリ

第一中隊基準

百米前進ノ後斜右ノ一本杉ニ向テ停止 (動作ヲ示ス)

、、、、、、、、、、

質 問

第一百七十七諸種ノ部隊ヲ以テ屢々夜間演習ヲ行ヒ云々ノ諸種ノ部隊トハ各兵種ノ意ナリヤ

答

否茲ニ示スハ歩兵ノ諸種ノ部隊即チ中隊、大隊、聯隊等ノ諸種ノ部隊ヲ指スモノトス

質 問

改正草案第一百七十八ニ示ス「少數ノ人員ニテ操縦シ得ヘキ標的」トハ如何ナルモノナルヤ

答

布製ノ立姿的ヲ數條ノ麻繩ニ依リ横隊或ハ散兵線ノ間隔ニ連結シ二三兵卒ノ操作ニ依リテ任意ニ立姿、膝姿、伏姿高ヲ顯ハサシメ得ル如ク

製作シタルモノトス尙歩兵射撃教範改正草案第百五十一ヲ參照ス
ヘシ

質 問

第七十八第二項ニ曰ク「小部隊ノ戰鬪演習ニ在リテハ射撃ノ指揮及
銃ノ用法ヲシテ目標ノ景況ニ伴ハシムルヲ要ス之カ爲殊ニ敵線ノ表
示ヲ實況ニ近カラシムヘシ」ト如何ニ敵線ノ表示ヲ爲セハ此主旨ニ合
スルヤ

答

實員ノ兩部隊ヲ以テスル對抗演習カ或ハ少數ノ人員ニシテ操縦シ得
ヘキ標的即チ幕的等ヲ用ヒテ實況ニ近邇セル敵線ノ状態ヲ現ハスモ
ノトス就中第二ノ法ハ其實施簡便ナリ

質 問

第二百二第二項中ニ曰ク「若シ他ノ正面ニ於テ散兵線ヲ設クルノ必要
ヲ生スルトキハ後方ニ在ル密集部隊ヲ新正面ニ散開シ舊散兵中不要
ニ屬セルモノハ速ニ之ヲ集合スヘシ」ト此末句ノ「集合」ハ第一部ノ制式
ニ示ス「集合」ナルヤ若シ然リトセハ第二百六ニ示ス所ノ集合ノ場合即
チ攻撃ニ在テハ追撃射撃ヲ終リタル後散兵ヲ集合シ退却ニ在テハ敵
ノ追撃ヲ受ケサルニ至リ始メテ集合スルヲ得ルノ二場合ニ合致セス
却テ寧ロ同第二項「戰鬪中兵力ヲ一地ニ集ムルヲ要スルトキハ併合ヲ
行フモノトス」ニ適合スルカ如シ故ニ此集合ハ併合ト解スルヲ可トス
ルカ如シ斯ノ如ク解スルモ差支ナキヤ如何

答

第二百二第二項末句ノ「集合」ハ敵ノ射撃界内ニ於テ行フモノニシテ速
ニ之ヲ集合スヘシト示シアルヨリ見ルモ此「集合」ハ「集結」ノ意ナルカ如

シ故ニ多クハ併合ヲ爲スコト、ナラン但地形上若シ正規ノ集合ヲ爲シ得ルトキハ之ヲ爲スヘキハ勿論トス

質問

草案第百九十四第二項ノ「疎散ナル散兵線」ノ説明ヲ乞フ

答

散開スルトキ各散兵ノ間隔ハ約二步ヲ定規トスルコトハ第一部ノ制式(第百三第二項)ニ示ス所ナリ故ニ之ヨリ大ナル間隔ノ散兵線ハ即チ疎散ナル散兵線ナリ然レトモ此場合ニハ被害ヲ避クルヲ目的トスルモノナルヲ以テ三四步ノ間隔ニテハ未タ充分ナリト謂フヲ得ス恐ラク小隊正面ニ一分隊或ハ多クモ半小隊ヲ散開スヘキヲ以テ此間隔ハ少クモ五六步以上ナルヘシ

質問

一躍進ノ距離ヲ三四十米ヨリ小ナラシムルハ概シテ利益尠シト云フハ如何ナル理由ニ依ルヤ

答

實驗ハ依レハ約四五十米ヲ躍進スル間ハ正對スル敵ノ各散兵ノ我ニ向テ發射スル彈丸ハ一發乃至二發ニシテ縦令一躍進ノ距離ヲ三十米以下ナラシムルモ敵ノ散兵カ準備セル第一發ノ彈丸ハ到底之ヲ免ル、能ハサルナリ故ニ敵ヨリ受クル損害ヨリ打算スルモ三四十米以下ノ躍進ハ効益少クシテ徒ラニ前進運動ヲ遲緩ニシ時間ヲ費スノミ

質問

突撃ノ號音ハ高級指揮官ニアラサレハ之ヲ吹奏セシムルノ權能ナシト聞ク(本書第一集第一版)ニモ斯克記載シアリ然ルニ第一部中隊教練ノ部ニ於テ第百四十六銃劍突撃ノ項ニハ「突込メ」ノ號令ニテ各人ハ

喊シテ敵ニ向ヒテ突進シ喇叭手ハ間斷ナク吹奏スヘキコトヲ規定シ
アリ故ニ突撃若シ散兵線ヨリ起リタル場合ニハ第一線ニアル指揮官
ハ勿論突撃號音ヲ吹奏セシメ得ルモノト信ス如何

答

突撃號音ヲ吹奏セシメ得ルヤ否ヤノ權能ノ問ニ對シテハ予ハ何レノ
指揮官モ此權能アリト答フヘシ是レ部下ノ喇叭手ニ命令スルハ其上
官タル將校ノ權限ニアレハナリ然レトモ此場合ニ於ケル突撃ノ號音
ハ單ニ命令トノミ解スルハ正當ナラサルヘシ又命令ヲ以テ吹奏セシ
ムヘキモノニハアラサルナラン第一部ノ規定ニ依ルモ喇叭手ハ中隊
長ノ「突込メ」ノ號令ニ依リ別命ナクモ吹奏スルナリ現行操典ニ於テハ
總指揮官ハ適時ニ喇叭手ヲシテ突撃ノ號音ヲ吹奏セシムルノ規定ア
リシモ改正草案ハ之ヲ廢止シタリ而シテ此理由タル此際喇叭ヲ以テ

突撃ノ號音ヲ傳フルノ方法ハ前線ニアル一部隊ノ自ラ突撃ニ移リタ
ルトキ第一部ノ規定ニ從テ吹奏スル場合ト混同シ且後方ヨリ吹奏ス
ル號音ハ過早ニ突撃ヲ敵ニ豫報スルニ等シキ害アルヲ以テナリ
故ニ第一集ノ答解ハ恐ラク何等カノ誤リナルヘシ
(右ノ理由ニ依リ第一集中突撃ノ號音ヲ吹奏セシムルノ權限ニ關ス
ル問答ハ之ヲ取消ス)

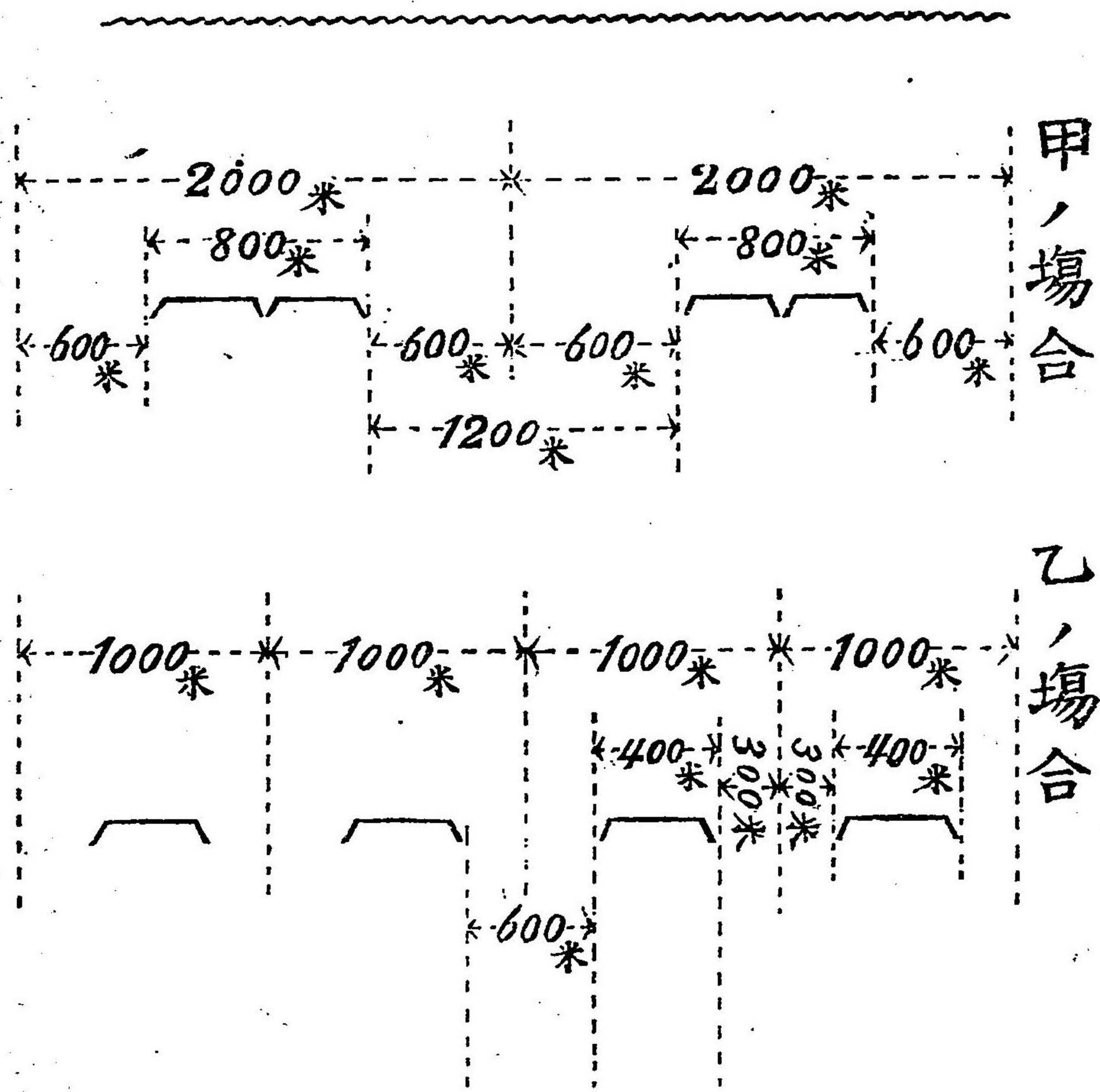
質 問

防禦工事ハ連續セル火線ト爲スコトナク成ル可ク大隊毎ニ集團セシ
ムルヲ可トスル理由ヲ問フ

答

連續セル防禦工事ハ若シ其一部陷落スルトキハ此方面ニ對シテ側方
ニ設備ナキカ爲メ直ニ全陣地ノ陷落ヲ促スニ至ルノ害アリ且連續セ

ル火線トスルトキハ比較的の必要ナラサル部分ヲモ守備シ且此部分ニ
 工事スルヲ以テ多數ノ守兵ト多クノ勞力トヲ要スヘシ又連續セル防
 禦工事ハ從テ直線式トナリ障地前ニ往々射撃シ得サル死角ヲ生スル
 モ之ヲ側防スルコト難シトス
 之ニ反シ工事ヲ諸要點ニ集團シテ施ストキハ比較的守兵ト工事トヲ
 節約スルヲ得殊ニ各集團ハ各獨立の性質ヲ有スルヲ以テ縱令一集團
 陷落スルモ一線工事ノ如ク其害ヲ他ニ及ホスコト少ク却テ他ノ集團
 ニ頼リテ之ヲ恢復スルコト敢テ難キニアラス殊ニ側隣ノ集團ヨリ互
 ニ側防シ得ルノ利アリ
 是レ集團工事ヲ可トシタル所以ナルヘシ而シテ何故ニ大隊毎トセル
 ヤハ恐ク次ノ理由ニ依ルナラン
 夫レ若シ聯隊毎ニ集團スルトセンカ同一長度内ニ同一兵力ヲ配置シ



步兵操典改正草案ノ部

タルトキハ之ヲ大隊毎トシ
 タルトキノ大隊ノ間隔ハ例
 ヘハ五六百米ニシテ能ク相
 互ニ側防シ得ルモ聯隊毎ノ
 集團ノ間隔ハ極メテ大トナ
 リ互ニ側防スルコト能ハス
 之レ大隊ヲ單位トシタル所
 以ナルヘシ
 例ヘハ防禦ノ目的上二個聯
 隊ヲ以テ四千米ノ地域ヲ擔
 任スル場合ニ於テ一大隊ノ
 正面ヲ四百米ト假定シ二大

隊ヲ第一線ニ出ストセハ右聯隊ハ右二千米ノ中央八百米左聯隊ハ左二千米ノ中央八百米ヲ領シ兩聯隊ノ間隔ハ千二百米トナル(甲ノ場合)之ニ反シ大隊毎ノ集團トスルトキ(乙ノ場合)ハ其間隔六百米ニシテ側防確實ナルヲ得ヘシ

集團ノ利ハ以上述フルカ如シト雖モ連續セル火線ニ比シ比較的多少ク敵ノ集中火ヲ受クルノ害アリ是レ僞工事等ヲ用キテ敵ヲ僞欺シ其火力ヲ分散セシメ又成ルヘク掩蔽スヘキヲ注意シタル所以ナルヘシ

質問

戦闘間ニ於ケル大隊ノ正面幅ハ併立シタル四中隊ノ展開面ヲ以テ最大限トスルコトハ現行操典(第三百十九)ノ規定ナリ然ルニ改正草案(第二百九十一)ニ於テハ大隊ノ負擔シ得ヘキ正面幅ハ通常三中隊面ヲ超エサルモノナリトセリ此理由ヲ問フ

答

現行操典ニ據レハ大隊ノ正面幅大ナルトキハ四中隊ノ展開面トナルモ斯クノ如クナルトキハ大隊長ハ戦闘ノ經過中兵力ノ大部ヲ掌裡ヨリ失フヤ明カカリトテ之ヲ戒メ且大隊併立スルトキハ其餘地ニ乏シク又獨立ノ場合ニ在リテハ兵力ノ控置ヲ要スルカ故ニ何等ノ場合ヲ論セス戦闘正面ハ概シテ狭小ナルヲ要スヘキコト即チ反言スレハ四中隊面ヲ取ルコトハ殆ント之レナキコトヲ示セリ故ニ其主旨ニ於テハ改正草案ト殆ント異ル所アラサルナリ改正草案ニハ大隊ヲシテ負擔セル正面ノ戦闘ヲ獨立シテ遂行シ得セシムル爲メニハ如何ナル場合ニ在リテモ少クモ一中隊以上ヲ控置スルノ要アルカ故ニ正面幅ハ約三中隊面ヲ超エサルモノナルコトヲ示セリ

質問

改正草案第二百九十六ニ曰ク「旅團ノ正面幅ハ最初ノ展開ニ於テ概テ千五百米ヲ超エサルモノトス」ト此千五百米ナル數ハ何ヲ基礎トシテ算出セラレシヤ

答

旅團ハ通常一大隊ヲ豫備トス然ルトキハ一方ノ聯隊ハ三大隊他ノ聯隊ハ二大隊トナル而シテ此兩聯隊ヲ其戰鬥正面内ニ併列シテ使用スルハ最モ適當ニシテ多クノ場合斯クノ如クナルヘシ故ニ今此兩聯隊ハ各一大隊ヲ後方ニ控置シ甲聯隊ハ二大隊乙聯隊ハ一大隊ヲ第一線ニ展開シタルトキハ各大隊ハ最大限三中隊ヲ正面ニ展開スルモノ大隊ノ正面約四百五十米即チ概算五百米ニシテ三大隊ヲ合スレハ概テ千五百米トナルヘシ實際ニ於テハ甲聯隊ハ或ハ單ニ一大隊ヲ第一線ニ展開スルナラン然ルトキハ旅團ノ全正面ハ更ニ之ヨリ減スヘシ是

レ概テ千五百米ヲ超エサルモノトス」ト謂フ所以ナラン控置シタル大隊第一線ノ翼側後ニ位置スルトシ其正面ヲ加算スルモ概算數ハ甲ノ場合ニ於テモ亦變スルコトナシ

步兵機關銃操典草案ノ部

質 問

機關銃ハ低キ組立法ヲ以テ制規トシタルハ何故ナルヤ

答

低キ組立法ヲ制規トシタルハ行進ノ爲之ヲ保持スル場合ニモ射撃ヲ行フ場合ニモ共ニ之ヲ有利トスルカ故ナリ

質 問

機關銃ノ單銃教練ニ於ケル轉回ハ停止間タルト行進間タルトヲ問ハス其動作終ルノ後停止スルコトナク續テ行進スルノ規定ニシテ步兵教練ニ於ケル轉回ト異ナリ此理由ヲ問フ

答

單銃教練部隊教練及馱載教練ニ共通セシメントスルカ爲ナルヘシ

質問

機關銃ノ射擊單位ヲ二銃ト定メタルハ何故ナルヤ

答

機關銃ハ發射速度大ナルノミナラス集束彈道凝集シアルヲ以テ二銃ヨリモ多ク同一目標ニ射擊ヲ指向スルトキハ射彈ハ益、一局部ニノミ凝集シ却テ敵ニ與フル損害ヲ減スヘシ之ニ反シテ單一銃ヲ單位トセハ往々故障ノ爲發射ヲ繼續シ得サルコトアリ緊要ナル時機ニ於テ斯ル故障アラシカ或ハ戰鬪ノ勝敗ニ感及スルコトナキヲ保セス是レ射擊單位ヲ二銃ト定メタル所以ナリ

質問

機關銃ノ射擊陣地ノ偵察ニ關シテハ本邦ノ操典草案ニハ何等ノ規定ナシ是レ全ク其必要ヲ認メサルニ依ルヤ若シ些少ニテモ偵察ノ必要

トスルアラハ如何ナル方法順序ヲ以テ如何ナル件ヲ偵察スヘキヤ

答

機關銃ノ射擊陣地ハ若シ機會ヲ有スレハ之ヲ偵察スヘキモノナリト雖モ砲兵ノ如ク必ス豫メ陣地及進入路ヲ偵察スルノ要ナシ蓋シ機關銃ハ運動輕易ニシテ且歩兵ノ利用シ得ヘキ地物ハ總テ之ヲ利用シ得ヘケレハナリ是レ本邦操典ニ於テ特ニ規定ナキ所以ナルヘシ然レトモ前述ノ如ク機會アレハ之ヲ偵察スルヲ可トス其順序方法及偵察要件等ハ獨逸機關銃隊操典ノ「射擊陣地ノ偵察及選定」ナル項目ヲ參照スヘシ
即チ左ノ如シ

- 一、陣地選定ノ要件ハ受ケタル任務ノ範圍内ニ於テ終始最高ノ効力ヲ顯シ得ヘキヲ以テ主眼トシ掩護ノ顧慮ヲ第二ニ置クヘシ

二、各陣地ノ選定ニ先タチ特別ノ偵察ヲ要ス巧妙ニシテ機宜ニ適スル此偵察ハ成功ノ第一着歩ナリ而シテ偵察スヘキ要件左ノ如シ

目標ノ探求

我陣地ト觀察セル土地ノ形状

進入路及其通過ノ難易

急襲ニ對スル警戒ニ關スルコト

三、陣地ノ偵察ハ前進及防禦ノ際ハ銃隊長自ラ之ヲ行フヘシ

退却ニ際シテ銃隊長ハ敵火ノ有効地帯ヲ脱スルマテ其隊ニ止リ

故參將校ヲ先行セシメテ偵察ヲ行ハシム然レトモ進入前ニハ成

ル可ク銃隊長自ラ之ヲ點檢スルヲ要ス

四、選定セル陣地ハ過早ニ敵ノ注意スル所トナラサルヲ要ス故ニ銃

隊長自ラ之ヲ點檢スルニ方リ屢々隨伴者ヲ後方ニ止メ且徒歩ス

ルコトアルヘシ

五、陣地ニ具備スヘキ要件左ノ如シ

廣濶ニシテ展望自由最近距離マテ掃射シ得ルコト

正面線ハ成ル可ク射線ト直角ナルコト

地域十分ナルコト(本邦操典ノ規定ニ依レハ六銃ヨリ成ル一隊

ノ正面幅ハ約百米ヨリ超過セシメサルヲ要ス)

敵ノ視目ニ對シテ遮蔽スルコト

陣地内及後方ヘノ交通容易ナルコト

六、敵ノ已ニ試射セル目標ノ直近或ハ同高ニ位置スルコトハ成ルヘ

ク之ヲ避ケサルヘカラス

又顯著ナル物體ノ附近殊ニ是等物體ノ直前ニ位置スルトキハ敵

ノ試射ヲ容易ナラシムルノ不利アリ然レトモ暗黒ナル物體ノ前

方或ハ適當ニ茂生セル藪叢等ノ中ニ在ルトキハ敵ヲシテ目標ノ
發見ヲ困難ナラシムヘシ

天然及人工ノ各種遮蔽物ハ敵ノ觀測ヲ困難ナラシムルノ利アリ

質 問

機關銃ニシテ過早ニ射撃ヲ開始スルトキ如何ナル害アリヤ

答

効力不十分ニシテ却テ敵ノ志氣ヲ増進シ彈藥ヲ浪費シ且陣地ヲ敵ニ
發覺セラル、ノ害アリ機關銃陣地ニシテ敵ニ發覺セラレンカ敵ハ先
ツ之ヲ破壊スルコトヲ努ムヘク從テ我ハ緊急ノ時機マテ其位置ヲ保
チ得サルナラン

質 問

機關銃規整子ノ分畫ハ射撃ノ際幾何ト爲スヲ適度トスルヤ

答

通常十五乃至二十ヲ適度トス
然レトモ其銃ニ適度ノ分畫ヲ實驗上ヨリ豫知スルトキハ其分畫ニ規
正スヘシ

質 問

機關銃射撃中藥莢切斷セラレ其一部藥室内ニ殘留シタルトキハ如何
ニスヘキヤ

答

藥莢拔ヲ遊底ニ裝シテ抽出シ拭淨後射撃ヲ施行スヘキモノトス

質 問

機關銃ノ單發射撃ハ銃ノ保存上ニ關係ナキヤ

答

逆鉤及引鐵ノ保存上不利益トス

六十二

質 問

機關銃射擊中其射擊ヲ中止センカ爲メ引鐵ノ壓迫ヲ緩ムルモ尙連續射擊止マサルコトアリ此場合ニハ如何ニスレハ可ナリヤ

答

引鐵ノ壓迫ヲ緩ムルモ尙ホ連續發射スル原因ハ逆鉤ノ引鐵ニ鉤セサルカ爲ナリ
此場合ニハ引鐵ヲ前方ニ推スカ又ハ槓桿ヲ支持シテ活塞ノ運動ヲ阻止シ以テ射擊ヲ中止シ直ニ修正ヲ行フヲ要ス

野砲兵操典改正草案ノ部

質 問

三八式野砲ノ教練及射擊ハ三十九年發布ノ野戰砲兵操典改正草案及同射擊教範改正草案ノミニ據ル能ハサル點アリ如何ニスルヤ

答

改正草案ノ外四十年八月末發布セラレタル三八式野砲操法假規定及三八式野砲射擊假規定トニ依リ實施スヘキナリ

質 問

歐米諸國ニ於ケル現用野砲ハ何レモ防楯ヲ有スルヤ又曳火ノ最大射程ヲ問フ

答

防楯ハ各國ノ野砲皆之ヲ有ス

又曳火射程ハ丁抹ヲ最大トシ獨逸ヲ最小トス其他主ナルモノ左ノ如シ

丁抹	六〇〇〇米
瑞西	五九〇〇米
英	五七六〇米
露	五六〇〇米
埃	同 右
和蘭	同 右
佛	五五〇〇米
獨	五〇〇〇米
米	不明

質問

近時各國ニ於テ採用シタル野砲ノ防楯ハ全ク彈丸ノ侵徹ヲ許サ、ル

答

砲彈ノ全彈ニ對シテハ如何ナル場合ニモ抵抗力ナク爆裂榴彈ニ對シテハ殊ニ慘劇ナル景況ヲ呈ス
榴霰彈ノ彈子破片ニ對シテハ總テノ場合ニ於テ貫徹スルコトナシ
小銃彈(尖彈ヲ含ム)ニ對シテハ四百米以内ニ於テ始テ貫通ス

質問

各國ノ防楯ハ火砲ノ前面ニノミ設ケアルヤ尙ホ之ヲ側面ニ對シ用ヒサルヤ之ヲ側面ニ繞回スルトキハ斜射縱射ニ對シテモ能ク砲手ヲ掩護スルヲ得ヘシト信ス如何

答

現今各國ニ於テ採用スル防楯火炮ハ總テ側面ニ對シテ防楯ノ掩護ヲ存セス蓋シ防楯ヲ火炮ノ前面ノミナラス側面ニモ用フルトキハ能ク斜射縱射ニ對シ安全ナルヲ得ヘキモ斯ノ如キ裝備ハ著シク火炮ノ威力ヲ減殺スルニアラサレハ能ハサレハナリ

質 問

第六十二ニハ三八式野砲操法假規定ニ於テ第二項一番及二番砲手ハ何レノ姿勢ニ在リテモ砲架坐ニ坐スルモノトスヲ追加セラレタリ之レ操作ヲ迅速ナラシムルカ爲メノミノ理由ナルヤ

答

砲身後坐式野砲ハ其様式ノ如何ヲ問ハス追加セラレタル規定ノ如ク一番二番砲手ハ射撃間常ニ砲架坐ニ倚坐ス此理由ハ砲架ノ不動ヲ利用シ操作ヲ迅速ナラシムルカ爲メノミナラス特ニ放列砲車ノ重量ヲ

增加シ以テ砲架ヲシテ射撃ノ際仰起セシメス其安定ヲ計ルカ爲メナリ

質 問

一中隊ハ四門ヲ可トスルヤ六門ヲ可トスルヤ等種々ノ說アリ各國ハ果シテ如何ナル編制ヲ採用シアルヤ示サレタシ

答

現時各國ニ於テハ野砲ハ左ノ數ヲ以テ一中隊ト爲セリ但英ハ不明トス

露

八門

獨、埃、伊、諾威、和蘭

六門

佛、米、瑞典、瑞西、白耳義

四門

歩兵射撃教範改正草案ノ部

質 問

空氣ノ濃淡ハ射撃上ニ感及スルコト改正草案第十一ニ示ス所ナリ此
「空氣ノ濃淡」ハ氣壓及溫度ノミナルヤ濕度ハ關係ナキヤ如何

答

目下研究ノ程度ニ於テハ氣壓及溫度ノ彈丸ニ及ホス關係量ハ略之ヲ
計算シ得ルモ濕度ノ交感量ニ至リテハ未タ正確ノ實驗ナク單ニ其量
ノ極メテ少キモノナルコトヲ想像シ得ルニ過キス故ニ教範ハ特ニ濕
度ヲ茲ニ掲ケサルナリ

質 問

射撃技能ヲ練成スルニハ射手ノ性質體格ヲ審ニシ精密ノ注意ヲ以テ
教育シ徒ラニ外形ノ齊一ヲ望ムヘカラス(草案第二十九)ト一例ヲ示サ

答

遠距離ノ照尺ヲ取リテ照準スル場合(草案第五十)射手ノ體格ニ依リ左掌ヲ内方ニ向クルカ如キ又各種姿勢ノ射撃ニ於テ頭ハ殆ント自然ノ位置ニ保チ床尾ヲ頬ニ接スル爲メ床尾踵ノ肩ニ接着スル部分ノ多少ハ各人ノ體格ニ依リ異ルカ如シ

質問

新兵ヲシテ照準ノ要領ヲ會得セシムル場合約十米ニ在ル中徑二珊米ノ黒點ノ下際ニ正シク照準シタル景況ヲ知得セシムルコトハ草案第四十二ニ示ス所ナリ又第四十二ニ於テ照準鑑査法ノ場合ニモ約十米ノ距離ニ於テ中徑二珊米ノ鑑査的ヲ照準セシムルコトニ規定シアリ此約十米ナル距離ト中徑二珊米ナル黒點トハ如何ナル關係ヨリ定マリ

タルモノナルヤ

答

右ノ關係ハ視力ノ關係ヨリ規定セラレタルモノトス即チ吾人ノ視力ハ通常目標マテノ距離ノ千分一乃至五百分一ノ目標ニ對シテ最モ正確ナル照準ヲ爲シ得ルモノニシテ目標タル黒點此大サヨリ小ナルトキハ明瞭ヲ缺キ照準困難ナリ又此大サヨリ大ナルトキハ黒點ノ下際タル圓弧ノ半徑大ナル爲メ直線狀ヲ呈シ照準線ハ眞ノ下際ニ外ツレ左右ニ偏シ易キニ至ル故ニ最モ照準ニ容易ナル距離ノ五百分一ノ基準ニ從ヒ十米ニ對スル二珊米ト規定シタルモノトス

質問

現行教範ニ於テハ新兵ヲシテ托架上ニ安置セル銃ニ就キ正シク照準シタル景況ヲ知得セシムル場合右眼ノ床鼻ノ後方ニ置カシムル規定

ナリシモ改正草案(第四十)ニ於テハ新兵ヲシテ適宜ノ依托物ニ身體ヲ托シ以テ銃ニ觸ル、コトナク床尾踵ノ後方ヨリ通視セシムルコトニ改メラレタリ此理由ヲ問フ

答

是レ現行教範ノ方法ハ動モスレハ銃ニ觸レ易ク之カ爲時間ヲ徒費スルノ害アリシヲ以テ改正草案ハ此弊ヲ避ケンカ爲メ單ニ照準ノ要領ヲ會得セシムルカ如キ初步ノ演習ニ在リテハ床尾踵ノ後方ヨリ通視セシムルコトニ改メラレタルナリ

質 問

照準鑑査法草案第四十二ニ於テ得タル二點ノ距離ノ許スヘキ範圍ハ概テ幾何ナルヤ

答

實驗上通常古兵ハ約五密米新兵ハ約一珊米ヲ最大限トス

質 問

立射ノ姿勢ニ於テ銃把ハ通常右側面ヨリ握ルモノトス(草案第四十八ノ第三項)ト通常ノ二字ヲ加ヘアル理由ヲ問フ

答

銃把ハ必ス常ニ右側面ヨリ握ルモノニアラサルコトハ遠距離ノ照尺ヲ取り照準スルトキ(草案第五十)照尺度ノ高上スルニ從ヒ銃把モ亦漸次下方ヨリ一層堅握スルヲ要シ又伏射ノ姿勢(草案第五十六)ニ在リテモ右手ヲ以テ銃把ヲ稍下方ヨリ握ルヘキ規定アルニ依ルモ明ナリ是レ通常ノ二字アル所以ナリトス

質 問

射撃ノ際右肩ニ接着スヘキ床尾鋌ノ部面ハ概テ幾何ヲ適度トスルヤ

答

此事タル縦合同一種類ノ姿勢照尺度ニ於テモ各人ノ姿勢ニ依リ異ルモノニシテ到底一定スルヲ得サルモノトス草案第四十九ニ示スカ如ク立射ノ姿勢ニ於ケル照準ノ際ニ在テハ頭ハ殆ント自然ノ位置ニ保チ床尾ヲ頰ニ接スルナリ故ニ頸ノ長キ者ハ眼ト肩トノ距離大ナル爲メ頸ノ短キ者ニ比スレハ床尾飯ノ接着部比較的少キヲ免レス實驗ニ依レハ床尾飯面ノ三分ノ一乃至四分ノ一接着シアレハ射撃ニ妨ケナシ要スルニ無煙火藥採用後反撞ノ力ハ甚タ減シタルカ故右ノ如ク一部接着シアレハ敢テ妨ナキナリ照尺度ノ高上スルニ從ヒ床尾飯ノ位置ヲ下方ニスルヲ要スルハ草案第五十二ニ示スカ如シ其一定シ得サルヲ以テ知ルヘキナリ

質問

狹窄射撃ハ現行教範ニハ單ニ附録トシテ卷末ニ掲ケアリタルニ過キス然ルニ改正草案ニ於テハ之ヲ射撃教範中ニ挿入セラレタリ故ニ教範ノ此射撃ヲ要求スルノ程度モ増大セラレタルモノト解セラル果シテ然ルヤ

答

然リ

蓋シ現行教範發布ノ當時ニ在テハ狹窄射撃ハ村田歩兵銃ヲ以テ行フ規定ニシテ之ヲ以テ現用銃ノ使用法ニ慣熟セシメントスルモ比較的其價值少シトノ理由ヲ以テ附録トセラレタルモノ、如シ然レトモ其後三十年式銃狹窄彈ノ制定アリ現用銃ヲ用ヒテ實包射撃ト等シク此射撃ヲ實施シ得ルニ至リ且此射撃ハ其目的ヨリ見ルモ教練射撃ニ入ルノ階梯タルノミナラス之ヲ以テ教練射撃ノ不足ヲ補フコトヲ得之

ヲ附録ニ掲クルハ適當ナラサルモノト認めテラレタルニ由ルナラン

質 問

從來教練射ノ豫行トシテ行ヒシ空包射撃ハ改正草案ニ於テ削除セラレタリ廢止ノ理由ヲ問フ

答

空包射撃ハ其利益尠ク特ニ教範ニ掲ケ置クノ價值ナキモノト認めテラレタルニ由ル

質 問

改正草案ニハ教練射撃ニ於ケル架上立射ヲ廢セラレタリ此理由ヲ問フ

答

是レ現行教範ハ教練射撃實施ノ順序ヲ架上立姿ヨリ始ムルコトニ規

定シアレトモ立姿ノ姿勢タルヤ射撃豫行演習トシテ其基本ノ動作ヲ教練スルニハ適當ナルモ實包ヲ使用シテ實際ニ射撃スルニハ他ノ姿勢ニ比シ頗ル困難ナル姿勢ナルヲ以テ改正草案ハ教練射撃ノ實施ハ之姿勢中最モ容易ナル伏姿ヨリ始メ次ニ膝姿立姿ノ順序ニ漸次ニ困難ナル姿勢ヲ用フルコトニ改メラル從テ立射ハ若干習會ノ射撃ヲ終ヘタル後ニ於テ用フヘキ姿勢トナリタルヲ以テ強テ托架ヲ要セサルモノト認めタルニ由ルナルヘシ

質 問

教練射撃ニ於テ各級射手共ニ其最後ノ習會ハ基本射撃ノ最後ノ習會ト射距離射撃姿勢并ニ標的何レモ共ニ相同シ何カ理由アリヤ

答

是レ最後ノ習會ニ於ケル成績ヲ以テ基本射撃ノ最後ノ習會ニ得タル

成績ニ比較シ其進歩ノ程度ヲ檢知スルニ便ナラシメンカ爲ナリ

質 問

從來一習會ノ彈數ハ基本射撃ニ在リテハ三發實習射撃ニ在リテハ五發ノ規定ナリシヲ改正草案ニ於テハ基本射撃ノ發射彈ヲ實習射撃ト同シク五發トセル理由ヲ問フ

答

從來ノ如ク僅ニ三發ノ射撃ニテハ銃器ノ特質ヲ確ムルニ足ラサルト二年兵役ノ顧慮上射撃習會ノ回數ヲ増加スルコトナクシテ現行ノ規定ヨリ尙多數ノ彈藥ヲ精密射撃ニ使用セシメンカ爲ナリ

質 問

分隊ノ射撃ハ概テ八百米以内ノ距離ニ於テ行フモノナルコトヲ規定セルハ何故ナリヤ

答

是レ分隊ノ射撃ハ効力上ヨリ打算セハ八百米以上ノ距離ニ於テ之ヲ行フモ夥多ノ彈藥ヲ費消スルニ非サレハ有利ノ効力ヲ收得スルコト難ク寧ロ夫ヨリ以内ノ距離ニ於テ實施スルヲ利アリトスルニ依ル

質 問

改正草案ニハ現行教範中ニ在ル證明射撃ノ一篇ヲ廢セラレタリ此理由ヲ問フ

答

現行教範ニ示ス證明射撃ノ諸證明事項ハ射撃教育上其有利ナルハ勿論ナリトス然レトモ彈藥時日ノ制限及設計ノ困難等諸種ノ原因ノ爲メ其實施動モスレハ等閑ニ附セラル、ノ傾向アルハ敢テ之ヲ否認スル者アラサルヘシ且此射撃ニ依ラサレハ全然他ノ方法ヲ以テ之ヲ證

明理解セシムルコト能ハサルニアラス加之今後二年兵役トナリテハ兵卒ノ教育益其繁ヲ加フルニ至ルヘキヲ願慮シ教範ニ於テ尙是等ノ實驗ヲ要求シテ之ニ多クノ時間ヲ費サシムルノ比較的其價值尠カルヘキヲ認メタルニ依ルナルヘシ
但改正草案ニ於テハ集合彈着射擊ノ修正及彈道高ノ景況ヲ證明理解セシムル爲メ第六十二ニ其方法ヲ規定セリ

質 問

改正草案ニ於テ夜間射擊及間接射擊ノ爲メ特ニ一章ヲ設ケラレタルハ此射擊ノ價值増進シタル爲ナルヤ

答

此射擊ハ戰後ノ經驗ニ徴シ將來ニ於テモ屢々之ヲ應用スルノ機會アルヘキヲ以テ其方法ニ慣熟シ且ツ之カ効力ヲ驗知セシメ置クヲ有利

トセルニ由ルナルヘシ

質 問

二人立的(標的)ヲ廢止セラレタルハ何故ナルヤ

答

是レ精密射擊ヲ本旨トスル射擊ノ練習用トシテハ射距離ニシテ目標面過大ニ失シ且稍實際ノ景況ニ反スル標的ナルヲ以テナリ

質 問

標的ノ着色ハ人像的ハ黑色トスルノ規定ナルモ戰鬪射擊ニ使用スルモノハ茶褐色若クハ黑色等適宜ニ着色スルコトトシ其着色法ヲ嚴正ニ規定セス其範圍ヲ從來ヨリモ擴張セラレタルハ何故ナルヤ

答

是レ實際戰場ニ於テ現出スヘキ目標ハ通常黑色ノモノニ非スシテ茶

褐色等目視困難ナルモノナルヘキヲ以テ茶褐色若クハ黑色等適宜使
用シ得ルコト、爲シタルナリ但シ教練射撃ノ標的ニ限り人像的ノ着
色法ヲ改メサルハ此射撃ノ目的タル殊更ニ目視困難ナルモノヲ射撃
セシムルニ非スシテ精密射撃ヲ本旨トスルヲ以テナリ

質 問

階段托架ヲ廢シタルハ何故ナリヤ從來使用シタリシ此托架ヲ射撃豫
行演習中使用スルハ妨ナキヤ

答

階段托架ヲ廢シタルハ教練射撃ニ於テ此托架ヲ使用スル射撃ヲ廢シ
タルト射撃豫行演習ニ於テ用フヘキ托架ハ必シモ此制式ノモノヲ要
セサルニ由ル

托架ノ制式ヲ一定セサルモノナルカ故ニ射撃豫行演習ニ於テ從來ノ

托架ヲ用ウルモ敢テ差支アラサルヘシ

明治四十一年一月五日印刷
明治四十一年一月十日發行

轉 載
不 許

著 者

軍需商會編纂部

發行者

上 田 賴 三

印刷者

齋 藤 裕

印刷所

齋 藤 活 版 所

東京市牛込區若松町百五十番地

東京市赤坂區田町五丁目十一番地

發行所

軍需商會出版部

電話番町一四七一番
振替貯金口座五四一六番

典範令研究ノ彙第二集
正價金拾貳錢

8
7

